

令和5年度

南保育園 SDG s



大口町立南保育園



<はじめに>

南保育園周辺は、田園風景が広がり、四季折々の自然を感じられる環境である。しかし、この豊かな環境を子どもたちは目一杯楽しんでいるのか、また太陽や風、季節の移り変わりの変化に気付いているのか、と疑問に思うのが現状であった。そこで、保育園周辺の豊かな自然環境を保育に取り入れ、自然物を使った遊び、散歩、園外保育等を通し、四季折々の感動体験をする中で、同年齢や異年齢の友達との結びつきや周辺地域の人々との関わりを深め、心地よく安定した生活が送れるように取り組んでいくことにした。その中で、自分の住んでいる地域に愛着をもち、町の学芸員の方の力を借りながら、大口町の歴史にまつわる昔話や歴史的建造物などにも触れ、子どもたちに郷土愛を育んでもらいたいと思う。そして、この取り組みを通して、「質の高い教育をみんなに」「住み続けられるまちづくりを」「パートナーシップで目標を達成しよう」のSDGsに繋げていきたいと考える。

<経過>

昨年までの経験から、子どもたちは、身近な草花や虫や鳥、田畑の様子、空の変化など、より興味・関心をもつようになり、農道や園庭で見つけた草花や虫を図鑑や虫眼鏡で調べたり、部屋に飾ったり、飼育するなど、一人一人の自然に対する愛着心や探求心が深まっていった。

しかし、安心・安全な散歩活動を行うことが課題となっており、昨年度は、地域の人にSDGsや散歩活動について知っていただき、散歩時の人手の充実策の模索を行った。

今年度は、秋田・大屋敷・豊田地区の老人会の方々に散歩サポーターとして見守っていただき、安心・安全な散歩活動を行うことに加え、より充実した関係性を築けるようにした。

また、これまでの取り組みから、子どもたちのつぶやきや気付き、発見がたくさん聞かれるようになり、この豊かな発想や表現を形に残せないかと考えた。そこで、子どもたちの言葉や絵をもとに手作りするたの作成を新たな目標として取り組んでいくことにした。

完成した「郷土愛かるた」で地域の人と一緒に遊び、豊かな心と地域への愛着心を育てていけたらと思っている。

R5年度 南保育園「郷土愛年間活動計画」

南保育園のSDGs：NO. 4「質の高い教育をみんなに」 NO. 11「住み続けられるまちづくりを」
NO. 17「パートナーシップで目標を達成しよう」

ねらい：住んでいる町について深く知り、地域の人と触れ合うことで豊かな心と地域への愛着心を育む												
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
主となる 園の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ○園周辺や農道を散歩したり、探索をしたりする <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方の見守りの中で自由に探索をし、園周辺の自然に触れたり、交流をしたりする ・興味をもったことを観察したり、図鑑や絵本、虫眼鏡などで調べたりする ○「郷土愛かるた」を作成し、かるたを使って遊ぶ <ul style="list-style-type: none"> ・子どものつぶやきや発見したこと、工夫していることなどを職員間で共有する ・友達や地域の方と一緒に「かるた」を使って遊んだり、南地域について振り返りながら、地域の方と交流をしたりする ○保護者の方や地域の方へ向けて活動内容やドキュメンテーションを掲示して発信し、それに対しての保護者の意見や感想などをいただく。 											
関連活動	<ul style="list-style-type: none"> ○町の学芸員から話を聞き、地域の歴史文化財や名所を見たり触れたりする <ul style="list-style-type: none"> ・堀尾跡公園（裁断橋物語） ・桜塚古墳 ・長松寺（汗かき地藏） ・歴史民俗資料館へ出かける（年長児） ○季節ごとの環境設定をおこなう （草花を飾る・図鑑や絵本の設置・万華鏡や虫眼鏡の貸し出し・飼育環境など） ○年次ごとにマップを作成したり、活用しながら、南保育園、園周辺、南地域のことを知る ○自然に関連する紙芝居や絵本の読み聞かせをおこなう 											

地域交流

～散歩サポーター～

豊田、大屋敷、秋田地区の方と一緒に南地区の史跡に出掛けたり、柿狩りを行ったりしました。自発的に交通安全ベストを着用して交差点に立つなど、子どもたちが安全に散歩に出掛けることができるよう見守ってくださり、散歩サポーターの構築の第一歩となりました。

<豊田地区～堀尾跡公園～>

この草花は
何だろう？



楽しかったよ
また、遊ぼうね



<大屋敷地区～桜塚古墳～>

車に気を付けて
渡ってね



<秋田地区～柿狩り～>

この柿を
採るといいよ



地域交流

～散歩サポーター～

豊田、大屋敷、秋田地区の方々を招いて交流会を行いました。保育園のSDGs活動について、取り組みを紹介し、一緒に触れ合って遊びました。



<豊田地区>

夏祭りで、年長児が和太鼓を披露したり、一緒に鳴子踊りをしたりしました。



子どもたちと一緒に踊って元気が出たわ



<大屋敷地区・秋田地区>

年少児は、一緒に手遊びをしました。



一緒に桜塚古墳へ行ったよね

年中児は、歌を披露しました。



この絵札は、柿狩りに行った時の写真だね

「郷土愛かるた」、正月遊びの双六、こま回しなどを楽しみました。



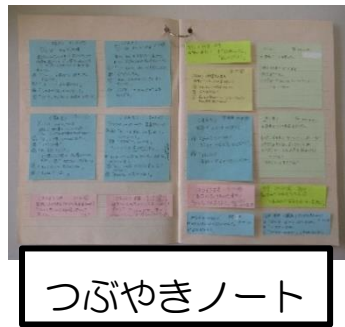
郷土愛かるた

～素材集め～

子どもと一緒にたくさん散歩に出掛けたり、園庭散策をしたりしました。その中で子どもが見つけた物や子どもの姿を写真に撮りました。また子どものつばやきを拾って、つばやきノートに集めました。



採ってきた草花を図鑑
で調べました。



つばやきノート



お花
見つけたよ



虫メガネを使って
自然物を見ました。



ありがとう



郷土愛かるた

～つくる～

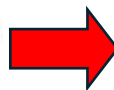
未満児

散歩や園庭で虫や植物に触れている子どもたちの写真を見て、保育士が言葉を考えたり、子どもたちのつぶやきから言葉を拾ったりして読み札をつくりました。

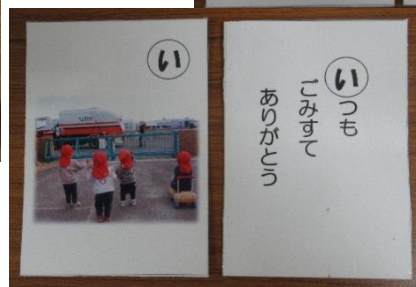


以上児

目にしたものや感じたことを子どもたちが絵にかいて絵札をつくりました。セットとなる読み札は、言葉遊びをしたりみんなで考えを出し合ったりしながらつくりました。



沢山のかるたができました



郷土愛かるた

～あそぶ～



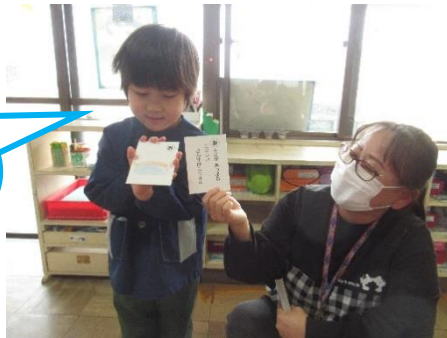
写真や絵を見て楽しみました。見たことあるものが多く、みんな興味津々でかるたを眺めていました。

見てみて！



自分たちでつくったかるたは、愛着があり、夢中になって楽しく遊びました。

僕がつくった
かるただよ



郷土愛かるた
楽しいね♡



とれたよ♪



色々なかるた
があるね！



<考察>

今年度は、豊田地区の方と堀尾跡公園へ、大屋敷地区の方と桜塚古墳へ出かけ、学芸員から大口町の歴史についての話を聞いたり、一緒に周辺を探索しながら交流をした。秋田地区の方とは柿狩りを一緒に行い、柿の種類や美味しい柿の見分け方、干し柿の作り方などを教わったりした。老人会の方の見守りの中で、草花遊びなど探索活動や柿狩りが行えたのは、安心・安全面で心強かった。

また、これまでの取り組みから園の困りごとを理解していただき、散歩時には率先して交通安全着を着用し、交通旗を持って交通量の多い交差点に立ってくださったり、現地の環境整備など、子どもたちの安全面を考えて動いてくださり、散歩サポーターとしての役割を担っていただけた。

各地域の老人会の方と、園内外で交流ができたことは、子どもだけでなく、老人会の方にとっても楽しいひとときになったように思う。「童心にかえって楽しかった」「子どもたちと過ごして元気になれた」などの言葉が聞かれ、生きがいや元気の素になっていたのではないかと思う。

「郷土愛かるた」を作成するにあたっては、「かるた」についてよく知らない子もいたため、言葉遊びをして読み札のイメージを広げた。また、継続して集めていた子どものつぶやきを読み札にしたり、写真を絵札にしたりして、素材を集めていった。そして出来上がった数組の「郷土愛かるた」で遊んだ際、自分のつぶやきに気付いたり、顔写真を見つけたりすることで、かるたを身近に感じ、自分から絵を描いたり、読み札を考えるようになっていった。自然に触れて感じたことを読み札にしたりすることで、散歩で見つけた物を図鑑や虫眼鏡を使って細かい部分までよく観察して絵に描いたり、子どもたちの記憶に強く残っていたように思う。

また、この「郷土愛かるた」が前述した地域の方と園児をつなげる一つのツールになり、「この札、私が写っている」「こんな可愛いかるたにしてもらって嬉しいわ」などの言葉が聞かれ、かるたを通して園の取り組みや身近な大口町の魅力を、知ってもらうことができたことは大きな成果であった。

令和3年度は、自然に恵まれた環境の中で、範囲を決めてのびのびと散策する農道散歩を実践し、令和4年度は、散歩マップを子どもたちとつくりながら、より充実した散歩を実践してきた。そこから見えてきた課題「安心・安全な散歩」の実現に向けて、散歩サポーターの構築のための取り組みを行ってきた。そして今年度は、これまでの取り組みすべてが、「かるた遊び」へとつながり、形にすることができた。

郷土愛活動に取り組み始めた頃は年少児だった子どもたちも年長児になり、自然物を素材にしながらか製作遊びを楽しんだり、実物を見ながら細部まで描いたり、不思議に思ったことを、図鑑を使って自分で調べたりしながら知識を広げようとするなど、五感をフルに働かせて楽しむようになった。保育士も、子どもたちがやりたくなるような魅力ある環境を作ったり、素材を集めたりするよう

になった。また、年少、年中、年長と3年間、学芸員から「裁断橋物語」「汗かき地蔵」の話を聞くことで、地域の歴史について学ぶことができた。散歩時など「金助くんの公園だね」「汗かき地蔵は今、汗かいているかな？」などと話す会話からも子どもたちの記憶に深く残っていると感じた。南保育園だからこそ成し遂げられたことであった。

この3年間で、子どもたちも保育士も「郷土愛」が育まれてきたと感じる。子どもたちが生まれ育った大口町に誇りを持ち、住み続けたい町になるためには、地域の方と子どもたちのつながりが不可欠である。今まで築いてきた地域の方との絆を大切にこれからも一緒に歩んでいきたいと思う。